

## 薬剤防除後の草刈りと2回目防除の徹底を ～斑点米カメムシ類が県内全域で発生～

1. 病害虫名：斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）
2. 発生作物：水稲
3. 発生地域：全県
4. 発生時期：－
5. 発生量：多い
6. 注意報発表の根拠（現在までの発生状況と今後の発生予想）
  - (1) 8月1半旬に80地点で実施した抽出ほ場調査における水田内での斑点米カメムシ類のすくい取り数（20回振）は3.6頭（平成3.0頭）で平成並だったが、発生地点率は71%（平成43%）が高く、県内で広範囲に発生が確認された（図－1、表－1）。
  - (2) 同調査における畦畔での斑点米カメムシ類のすくい取り数（40回振）は2.7頭（平成1.6頭）で多く、発生地点率は30%（平成28%）で平成並だった（図－2、表－2）。また、出穂したイネ科雑草や新葉が伸びている雑草がある畦畔の斑点米カメムシ類のすくい取り数は除草が徹底されたほ場と比較して多かった（表－3）。
  - (3) 8月4日に仙台区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平成並か多いと予報されている。
  - (4) 以上のことから、今後、斑点米カメムシ類の水田内での発生が多くなると予想される。
7. 防除対策
  - (1) 斑点米カメムシ類の発生が多くなると予想されることから、本年の薬剤防除は2回散布を基本とする。出穂期（ほ場全体の40～50%が出穂した日）を正確に把握し、適期防除に努める。各地域振興局の調査では、全県の出穂期は8月2日（平成8月3日）だった。
  - (2) 1回目の防除は、出穂期10日後頃にアルバリン剤又はスタークル剤を、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布する。
  - (3) (2)の散布当日から7日後までに畦畔や農道の草刈りを必ず行い、斑点米カメムシ類の増殖源となるイネ科雑草を除去する。
  - (4) 2回目の防除は、出穂期24日後頃にエクシード剤又はキラップ剤を茎葉散布する。
  - (5) 飼料用稲の作付けほ場においても、可能な限り、上記(1)～(4)の防除対策を実施する。
8. その他
  - (1) 殺虫剤を散布する際は、養蜂業者などと連携をとり、蜜蜂などへの危害防止に努める。
  - (2) 巣箱の設置場所が近接している場合は、蜜蜂が水田に飛来してくることがあるので、蜜蜂の活動が最も盛んな時間帯（午前8時～正午）を避け、できるだけ早朝又は夕方に農薬散布する。

## 9. 資料

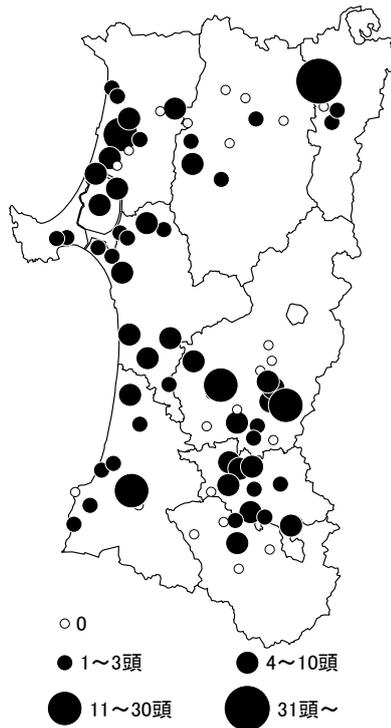


図-1 水田内における斑点米カメムシ類のすくい取り数(8月1半旬)

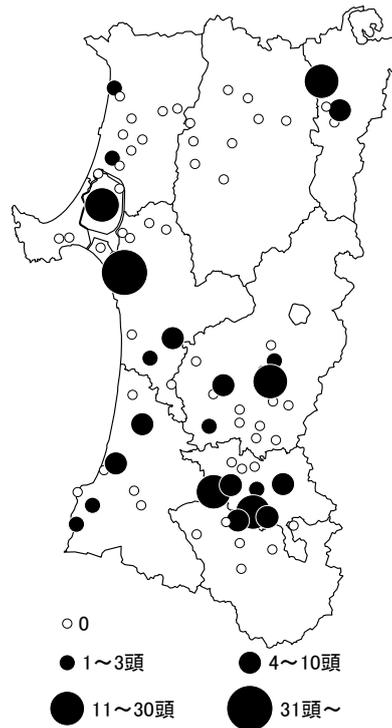


図-2 畦畔における斑点米カメムシ類のすくい取り数(8月1半旬)

表-1 水田内での斑点米カメムシ類すくい取り結果(8月1半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
2022	3.6	71	1.5	43	2.0	55
平年	3.0	43	2.2	29	0.8	23
概評	並	多	並	多	多	多

表-2 畦畔での斑点米カメムシ類すくい取り結果(8月1半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
2022	2.7	30	0.8	16	1.9	24
平年	1.6	28	0.5	10	1.1	22
概評	多	並	やや多	多	多	並

表-3 畦畔雑草の発生状況別すくい取り数(8月1半旬)

雑草の発生状況	雑草発生状況別地点率(%)	斑点米カメムシ類(頭)	アカスジ(頭)	アカヒゲ(頭)
除草が徹底されている	30	0.5	0.4	0.0
除草しているが、新葉が伸びている	49	1.1	0.1	0.9
出穂しているイネ科雑草がある	21	4.7	1.2	3.5

### 【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660  
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326  
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>